

政策番号	1	政策分野	環境
------	---	------	----

基本方針 豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。

担当局	環境政策局
-----	-------

共管局	
-----	--

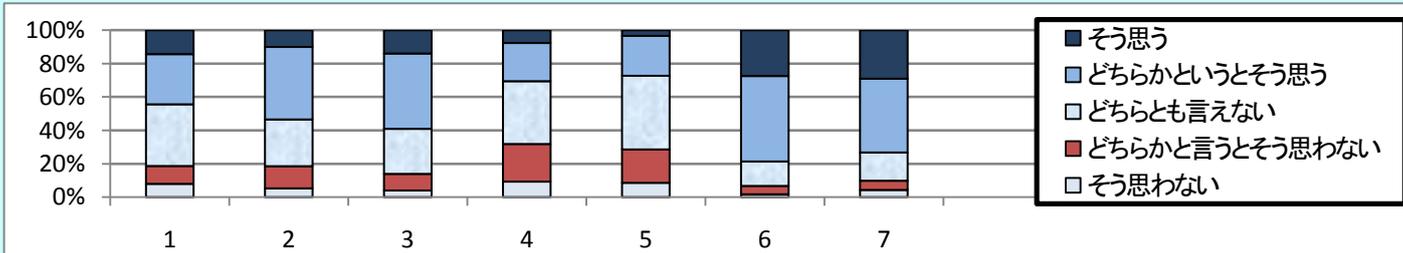
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	23 年度	24年度評価				
					前回は	最新値	目標値	達成度	評価
1 温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	11.4	25	-	d	11.4	21.1	25	84.4%	b
2 本市が受け入れるごみ量(トン)	49.7万	39万	-	a	49.7万	48.9万	48.7万	99.6%	b
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				b	b				

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	23年度	24年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	-	b	c
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	-	b	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	-	b	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	-	c	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	-	c	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	-	a	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	-	a	a
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価			b	b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		23年度		24年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	4	32.0%	4	32.3%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
	<p>【客観指標】・温室効果ガス排出量削減率は、平成32年度までに達成すべき目標値であり、目標値には届かなかったものの、平成20年度後半の金融危機に伴う景気低迷の影響による各部門のエネルギー需要の減少、電気の排出係数の改善等により、基準年からは164万トン、21.1%減少、前年度からは75万トン、10.9%減少するなど、着実に削減が進んでおり、b評価となった。</p> <p>・本市が受け入れるごみ量のうち、家庭ごみについては微増(+0.3%)に転じたが、事業ごみは業者収集ごみ処分手数料の引き上げ、剪定枝や刈草等の資源化可能なごみの民間資源化施設への誘導等の施策を実施したことにより減少(△4%)した。これにより、目標値には届かなかったものの、本市のごみの受入量合計は減少(△2%)しており、b評価となった。</p>	23年度	B
	<p>【市民の実感】・山紫水明の自然環境がかけがえのないものと実感されているかについては、やや評価が下がったものの、ごみ減量・ごみ分別の取組は高く評価されている。一方、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用や環境にやさしいライフスタイルへの転換など、比較的近年の取組については、「どちらとも言えない」との回答が多数となっている。</p> <p>【総括】・市民の生活実感は、昨年度から、かなり肯定的な評価が継続していることに加え、温室効果ガスの削減をはじめ、客観指標は着実に向上している。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果		参照ページ
		23	24	
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	-	A	55
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	-	B	57
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	-	A	59

<今後の方向性>

- ・さらなる温室効果ガスの削減と、環境にやさしい技術や行動に関する市民生活実感の向上に向け、市民協働発電制度の構築や大規模太陽光(メガソーラー)発電所の活用などにより再生可能エネルギーのさらなる普及を図るとともに、地域ぐるみで環境にやさしいライフスタイルへの転換を促進するなど、低炭素型のくらしやまちづくりを推進する。
- ・ごみを出さない暮らしの実現に向けて、まち美化事務所や各区役所・支所のエコまちステーションを中心とした地域とのきめ細やかな連携や、事業者への働き掛け等、そもそもごみを出さない2R(発生抑制・再使用)に重点を置いた3R(発生抑制・再使用・再資源化)の取組を推進する。
- ・山紫水明の京都の豊かな自然環境を保全するために、生物多様性地域戦略策定に向けた調査・検討を進めるとともに、環境影響評価法の改正を踏まえた計画段階における環境配慮手続きの強化などの取組を推進する。
- ・以上の取組を通じ、京都のまちがもつ市民力・地域力を結集し、京都議定書発祥の地として、「DO YOU KYOTO?(環境にいいことしていますか?)」を合言葉に、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」を目指す。

政策名	1	環境
-----	---	----

指標名	温室効果ガス排出量削減率〈1990年度比〉（％）
-----	--------------------------

担当部室	地球温暖化対策室	連絡先	2 2 2 - 4 5 5 5
------	----------	-----	-----------------

1 指標の説明

京都市域からの温室効果ガス（二酸化炭素，メタン等）年間排出量の，1990（平成2）年度比における削減率

2 指標の意味

自然環境を気遣う低炭素社会の実現に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

{1-対象年度排出量(万t)/1990年度排出量(万t)} × 100

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	11.4	25	京都市地球温暖化対策条例 京都市地球温暖化対策計画〈2011-2020〉

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	20年度	21年度		数値	根拠	達成度
数値	11.4	21.1	9.7ポイント増	25	京都市地球温暖化対策計画に掲げた平成32年度達成目標値	84.4%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		40%	42年度	52.8%	京都市地球温暖化対策条例

備考	算定に用いるデータの公表時期の関係から，21年度の値が最新となる。 なお，より正確に算定するため，平成24年度に都市ガスの排出係数を変更し，基準年度に遡って算定し直した。
----	--

5 評価基準

最新数値が
a：25%以上
b：18.75%以上25%未満
c：12.5%以上18.75%未満
d：6.25%以上12.5%未満
e：6.25%未満

6 基準説明

地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画〈2011-2020〉に掲げた，平成32年度までの排出量25%減達成（削減率25%以上）をa評価とした。また，0%（平成2年度から全く削減できなかった場合）～25%を等分し，b～eの4段階評価とした。

7 評価結果

	23	24
-	d	b

指標名	本市が受け入れるごみ量（トン）
-----	-----------------

担当部室	循環型社会推進部	連絡先	2 1 3 - 4 9 3 0
------	----------	-----	-----------------

1 指標の説明

本市が1年間に受け入れるごみの量

2 指標の意味

循環型社会の構築に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	49.7万	39万	京都市循環型社会推進基本計画〈2009-2020〉

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	49.7万	48.9万	0.8万トン減	48.7万	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	99.6%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	数値の公表時期の関係により，評価は速報数値で行い，前回数値については実数に修正
----	---

5 評価基準

最新値－目標値が，
a：0トン以下
b：0トン超～2.9万トン以下
c：2.9万トン超～5.8万トン以下
d：5.8万トン超～8.7万トン以下
e：8.7万トン超

6 基準説明

当年度の目標値（48.7万トン）を達成した場合をa，京都市循環型社会推進基本計画〈2009-2020〉の基準年度（平成20年度）のごみ量（57.4万トン）を超えた場合をeとし，b～dは等間隔（2.9万トン間隔）で基準を設定

7 評価結果

	23	24
-	a	b